

JAUW 神奈川支部便り NO. 84

2021年6月14日 発行

(一社) 大学女性協会 JAUW 神奈川支部

1. 支部総会報告 支部長 渡部由紀子

今年度もコロナ禍中のため、昨年に引き続き支部総会を書面にて行いました。支部会員中 20 名より議決権行使書をいただき総会が成立し、事業報告、決算報告および監査人による確認の報告、事業計画、予算が承認されました。

コロナ禍中のためかなり変則的な役員体制になりましたことと、ご承認いただきました役員以外に昨年度と同様に国内奨学担当と、奨学生候補のお話を聴く会担当を設けて今年度も対応していくこととしました。

定時会員総会につきましては、今年度もコロナ禍で書面審議となり、皆様から議決権行使書を提出していただき議案 2～4 は当日無事承認されました。議案 1 のみが再審議となり、既に議決権行使書に返送いただけたことと思います。なお、最初の議決権行使書提出の際に本部より提出要望がきたため、数人の方に直接電話でお話させていただきました。直接ご本人より近況を伺え、皆様がお元気に無事に過ごされていることが確認できました。

昨年度からコロナ禍でほとんど活動ができなく、ご入会いただいた新入会員とお目にかかる機会も設けられなかったため、今年度はコロナ禍が落ち着いた頃に支部例会や会員の懇親会などを対面式で開催することを考えています。

今まで応募いただいた国内奨学生候補から研究についてのお話を聴く会については現在準備中です。コロナ禍が落ち着くまでは、メールあるいは郵便にて、連絡させていただくこととなりますこと、ご了承願います。

大学女性協会のホームページが昨年末にリニューアルされました。本部だけでなく他支部のオンライン開催の活動に参加できるものもありますので、是非ご活用ください。

なお、丸山前支部長がお仕事の都合により急遽 5 月末に退会されたため、現会員数は 29 名です。

今年度の支部役員を以下の通り決定しました。

支部長／会計／HP 担当：渡部由紀子

副支部長／書記／支部便り担当：穂田信子

会計監査：西村寿美子 国内奨学担当：穂田信子

奨学生候補のお話を聴く会担当：鷺見八重子

2. 会計からのお知らせ

今年度の会費 (8,000 円) の納入がまだの方は、下記いずれかの方法で振込をお願いいたします。

1) ゆうちょ銀行口座へお振込の場合

① ゆうちょの口座をお持ちの方は、口座間の振替が無料です。その際は次の振り込み先へ

記号：10960 番号：13940851

口座名：(一社) 大学女性協会 神奈川支部

② 他銀行から振り込みの場合は、下記の口座番号をお使ください (銀行により手数料)

店名：〇九八、店番：098、普通預金

口座番号：1394085

加入者名：一般社団法人 大学女性協会
神奈川支部

2) 横浜銀行口座へお振込の場合

店名：横浜駅前支店、店番：383

普通預金、口座番号：1302963

加入者名：大学女性協会神奈川支部
代表者 丸山若重
(代表者変更までは現状維持)

3. 今後の予定

支部例会

日時：9月25日(土) 12:00～14:00

場所：かながわ県民活動センター 705 室

4. 2002～'03年頃の支部読書会から

取り上げた本は、「才女考—優秀という落とし穴」(1992年・勁草書房刊)。著者、バーバラ・

カーは幼い時、選抜されて「英才教育プログラム」を受けた現役の心理学者。彼女が教授職にある一方、多くの元同級生たちは家庭に入りました。その彼女たちから、「何故、あなたはそうなり、男子たちもキャリアを築いていったのに、自分たちがそうならなかったのかを同級生、また学者として、どこに違いがあったのかを探って欲しい」と言われたことが研究の発端となったと言います。

支部では、「英才教育プログラム」を「女子の高等教育」に置き換えて読み、最後に纏めとして以下のアンケートをとりました。読書会時のお話が深い感銘を与え、当時紙面でご紹介できなかった大先輩守山泰(やす)会員の回答をご紹介します。

***両親は「英才教育プログラム」への参加を何と言ったか：**

進学は当然という環境で、将来のため教員免許を取得するよう助言を受けた(昭和17年)

祖先は貧乏な松本藩の藩士であった。維新前に、女ながら新しい世の来る事を予感し、明治になり教育に貢献した者もいた。女性の教育の必要性をといてまわった下田歌子先生に感激し、先生の下に行った者もいる。「女は学なきをよしとす」には関係なく、女性達は小学校、女学校、女高師の現役、又は家庭に入った女子大出身に囲まれていた。(私の女学校卒業証書に長野県士族とあり、びっくりした。親戚・母達も含めて、祖先は士族というプライドがあったのか、でなければ、家を売ってまでして、女手一つで二人の娘を女子大・専門学校に出すはずがない、-あらためて、進学の環境をふり返る事が出来ました。)

(ちなみに、参議院本会議場の木彫は土農工商を表しているのが意外です)

***先生は何と言ったか：何も言われませんでした。**

***小学校、高校、大学を卒業した時点で、何をキャリア目標、人生の目標としていたか：**

-① **小学校卒業時**：満州事変の時代。60人クラスの1/2が女学校、残りが高等小学校へ。5、6学年で受験勉強(朝礼の前1時間、放課後4時まで、宿題は沢山)希望校に入れた喜びは入。勉強への意欲ではりきっていた。生涯の目標なし。

高等小学進学の生徒は、有名な赤堀料理教室へ週1回1年通い、進学組との溝はなかった。

-② **高校卒業時**：女学校1年で支那事変。5年第二次戦争。慰問袋、軍票の検査、火薬を入れる袋縫いなどあったが楽しい時代。しかしクラス全体、英語などおろそかにした。女性の立場がよくなる事を願って、「家庭の刷新」を目標に、女子大(教員免許を取得出来る)に入学。

-③ **大学卒業時**：2学年まで授業が出来たが、その後、防空訓練、軍需工場へ。空爆はげしく、家は焼失し終戦。戦争のない有難さを感じた。公立高校に就職。入学時の目標へ(不安より)期待が大きかった。

***結婚のキャリア目標への影響：**

共働き、目標に影響なし

***出産のキャリア目標への影響：**

子育て優先で退職。子供の成長で時間講師をし、自分の時間も持て、目標は生活の土台であった。

***同プログラムの良い影響：**

所得には全くつながらなかつたが、豊かな人生になった。

***同プログラムの悪い影響：全くなし。**

***「優秀児」というレッテルについてどう感じるか、レッテルを貼られることで影響を受けたか：**
全くなし。レッテルをはったのは、近所の人のみ(女学校、女子大に入学した時)。

***今、幸せか：**

幸せと思います。戦争、戦後をのりこえて、21世紀まで家族にかこまれて、病気もせず生きているのが不思議なくらいです。

追伸

「女子の数学嫌い」・・・数学の好きな生徒は・・・昭和46年頃、共学の高校では女子が家庭科の時、男子は数学であった。娘は家庭科は母に習うので、数学の授業を受けたいと申し出たが駄目でした。娘の感想：家庭科の授業は男子にこそ必要である。

~~~~~

支部便り次号で、新会員の方々に自己紹介をお願いしたいと考えています。どうぞよろしく。書記